

フリージア
Freesia
 (アヤメ科)

香りがよい早春の球根切り花で、11～4月の低温期に流通する。1本の切り花には3本程度の花序がつくが、小花数が多く、立派なのは先端の第1花序である。花序内の開花は基部から先端へ進み、基部の第1小花がふくらみ着色した状態で出荷される。ほとんどは葉がついた株切りであるが、花茎だけの枝切りもある。枯れた葉先をハサミやナイフで切りとって出荷される。水あげがよく、萎れにくいので乾式輸送される。効果がある前処理剤はないが、後処理剤を使用するとほぼすべてのつぼみが開花する。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
花序の老化	A: 萎凋した小花がなく1～2花が開花 B: 萎凋した小花がなく3～5花が開花 C: 2～4花が萎凋 D: 5花以上が萎凋	・第1花序を調査。 ・小花は基部から先端へ開花が進み、健全(A)か萎凋(D)かの判定は容易である。
葉の黄変・褐変	A: 黄変・褐変がない B: 葉先、葉先の切り口が黄変 C: 葉全体がやや黄変するとともに葉先から数mmが黄変 D: 全体が黄変・褐変した葉があり、葉先から1cm以上が褐変	葉の黄変に先行して小花が萎凋する。
その他		

2) 留意点

- ・第1花序のみを調査の対象とする。
- ・冬～春の代表的な切り花であるため日持ち調査は20℃で行うことがのぞましい。
- ・全部のつぼみが開花しないことがあるので、健全な小花(つぼみ)数ではなく、萎凋した小花数で日持ちを判定する。
- ・調査前に枯れた葉先をハサミ、ナイフで切りとる。

3) 開花

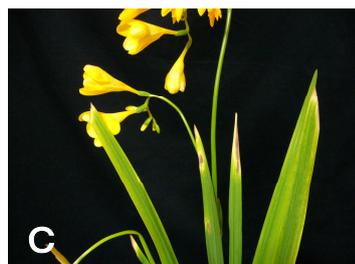


4) チェック事項

小花の萎凋



葉の黄変・褐変



葉全体がやや黄変

葉全体が黄変